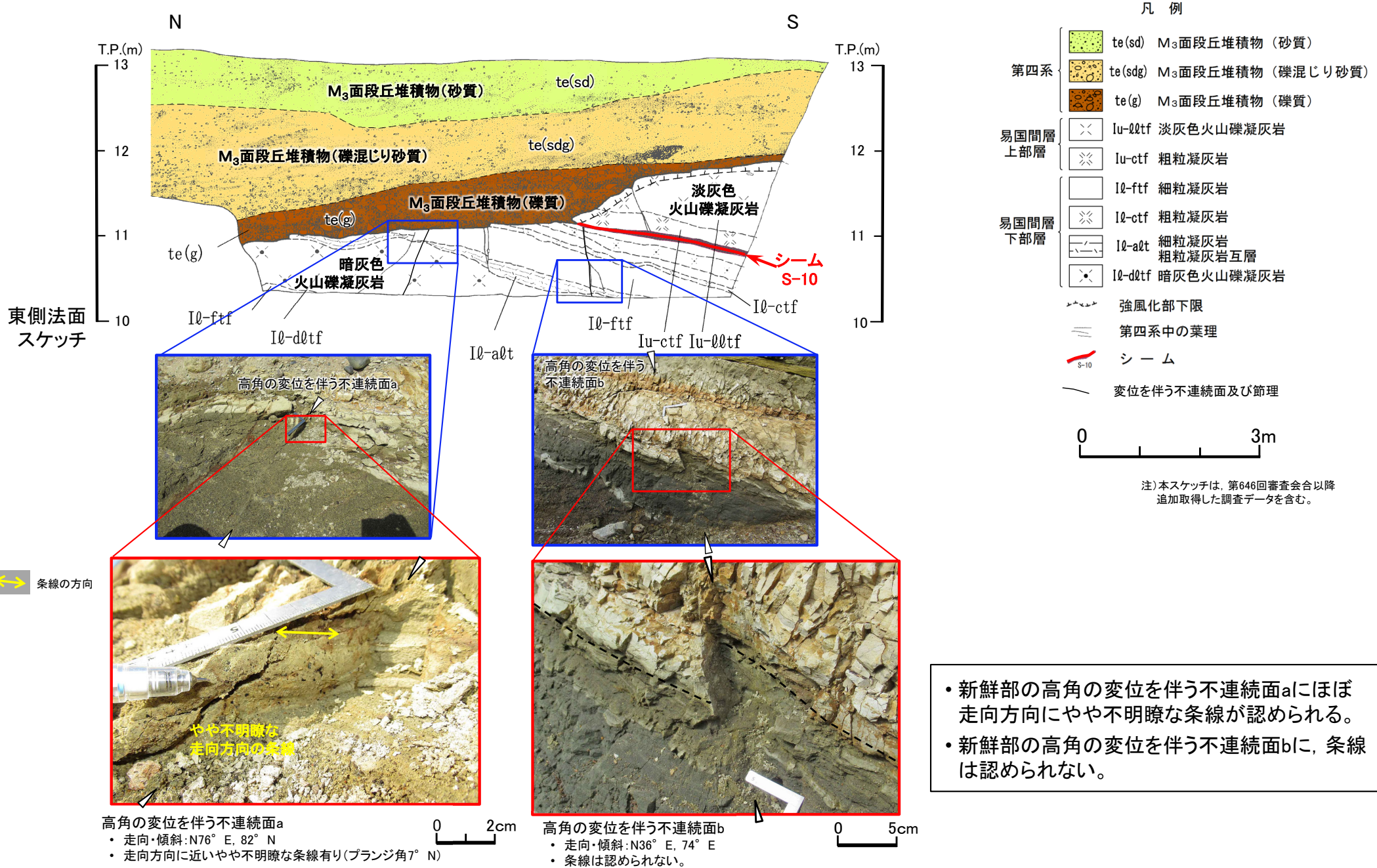


6. 変位を伴う不連続面の特徴(18/20)



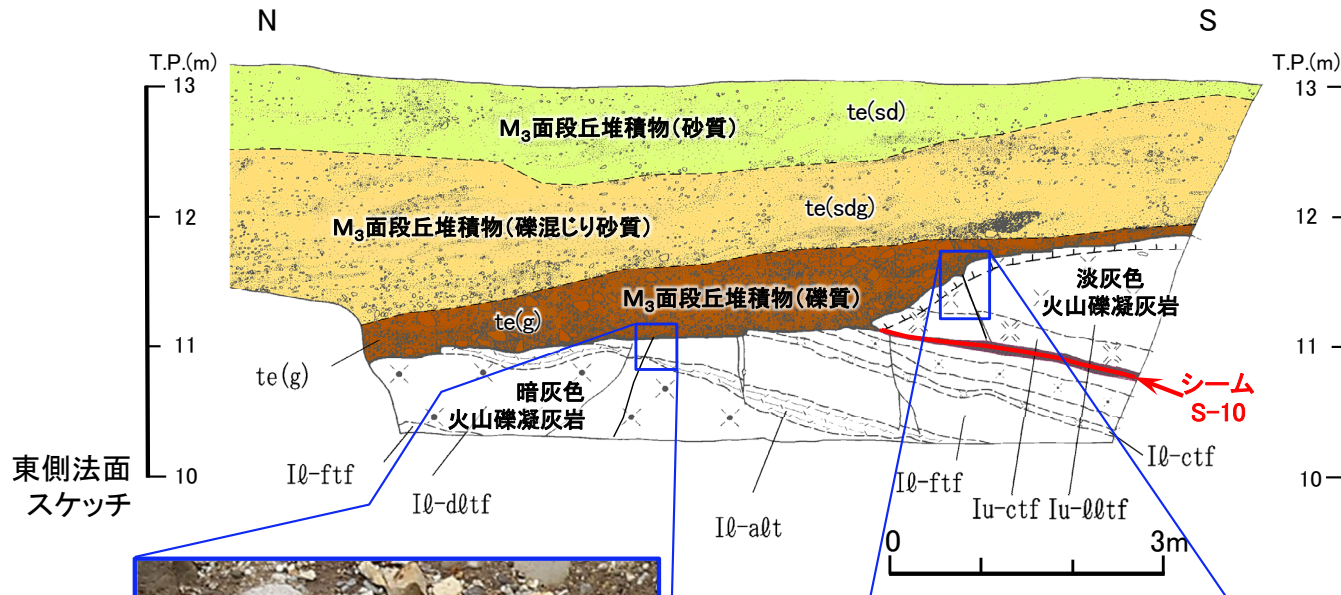
高角の変位を伴う不連続面の性状(2/4): Ts-2トレンチ東側法面(1/2)





6. 変位を伴う不連続面の特徴(19/20)

高角の変位を伴う不連続面の性状(3/4): Ts-2トレンチ東側法面(2/2)



凡例

第四系		te(sd) M ₃ 面段丘堆積物(砂質)
		te(sdg) M ₃ 面段丘堆積物(礫混じり砂質)
		te(g) M ₃ 面段丘堆積物(礫質)
易国間層 上部層		Iu-00tf 淡灰色火山礫凝灰岩
		Iu-ctf 粗粒凝灰岩
易国間層 下部層		I0-ftf 細粒凝灰岩
		I0-ctf 粗粒凝灰岩
		I0-alt 細粒凝灰岩 粗粒凝灰岩互層
		I0-d0tf 暗灰色火山礫凝灰岩
		強風化部下限
		第四系中の葉理
		シーム
		変位を伴う不連続面及び節理

注)本スケッチは、第646回審査会合以降追加取得した調査データを含む。

M₃面段丘堆積物下面



高角の変位を伴う不連続面a

高角の変位を伴う不連続面a
(前頁の高角の変位を伴う不連続面aと同じもの)

- ・ 走向・傾斜: N76° E, 82° N
- ・ M₃面段丘堆積物に変位・変形を与えていない。



高角の変位を伴う不連続面c

- ・ 走向・傾斜: N46° E, 84° N
- ・ M₃面段丘堆積物に変位・変形を与えていない。

M₃面段丘堆積物下面*

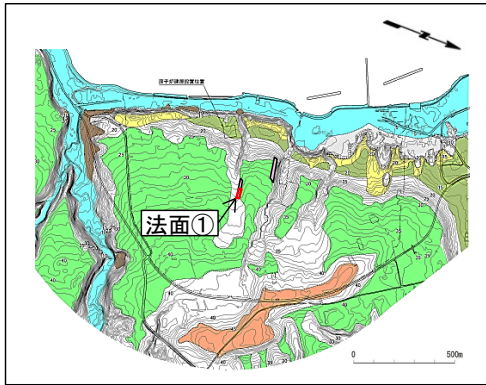
高角の変位を伴う不連続面はM₃面段丘堆積物に変位・変形を与えていないことを確認した。

*:写真撮影時期はスケッチ作成時期と異なるため、M₃面段丘堆積物下面の形状が異なる。

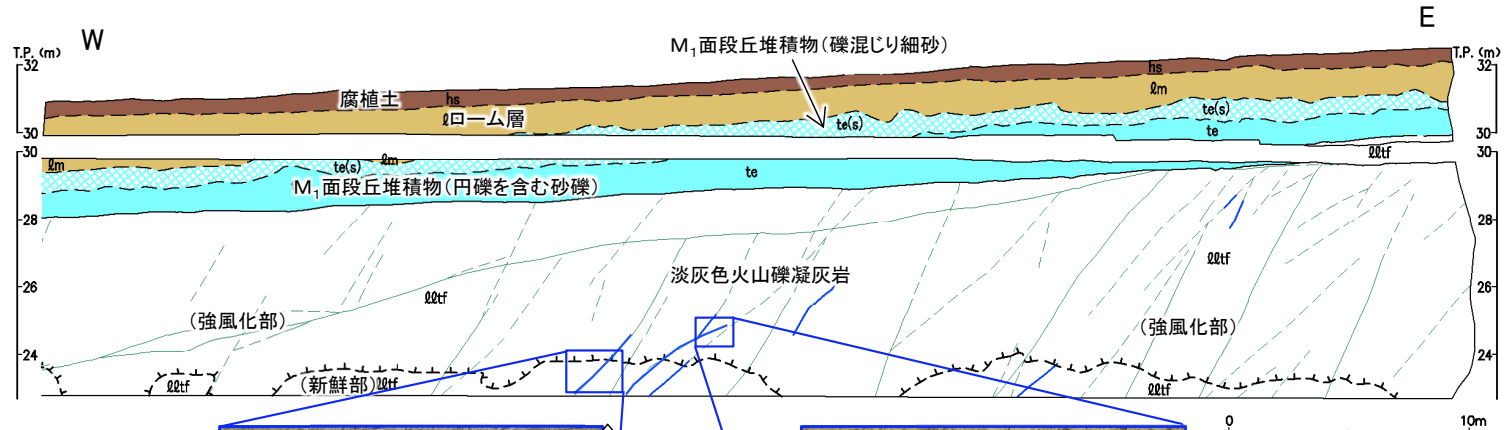


6. 変位を伴う不連続面の特徴 (20/20)

高角の変位を伴う不連続面の性状 (4/4) : 法面①

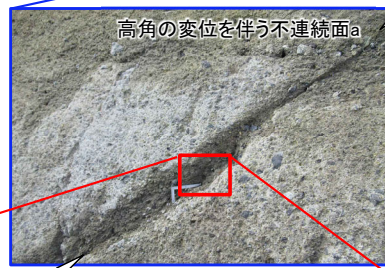


位置図

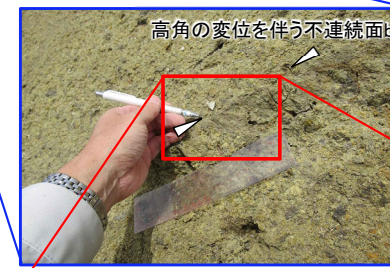


- 凡例
- hs 腐植土
 - lm ローム層
 - te(s) M₁面(MIS5e)段丘堆積物 (礫混じり細砂)
 - te M₁面(MIS5e)段丘堆積物 (円礫を含む砂礫)
 - lltf 淡灰色火山礫凝灰岩
- 地層境界
- 地質境界
- 風化部下限*
- 変位を伴う不連続面及び節理
- 筋状構造 (明瞭なもの)
- 筋状構造 (不明瞭なもの)

*: 風化部は、主に強風化部から成り、下部に薄い弱風化部を含む。



高角の変位を伴う不連続面a
・ 走向・傾斜: N43° E, 84° E
・ 走向方向に近いやや不明瞭な条線有り (プランジ角9° N)



高角の変位を伴う不連続面b
・ 走向・傾斜: N59° E, 82° N
・ 走向方向に近い明瞭な条線有り (プランジ角14° N)

法面① スケッチ

注) 本スケッチは、第646回審査会合以降追加取得した調査データを含む。



条線の方

- ・ 法面①の新鮮部及び強風化部では、高角の変位を伴う不連続面a,bにほぼ走向方向の条線が認められる。
- ・ 全体に表面は礫の凹凸主体で、条線はやや不明瞭である。

ボーリングコア観察結果

〔本編資料3.3.3(1)に関する基礎データ〕

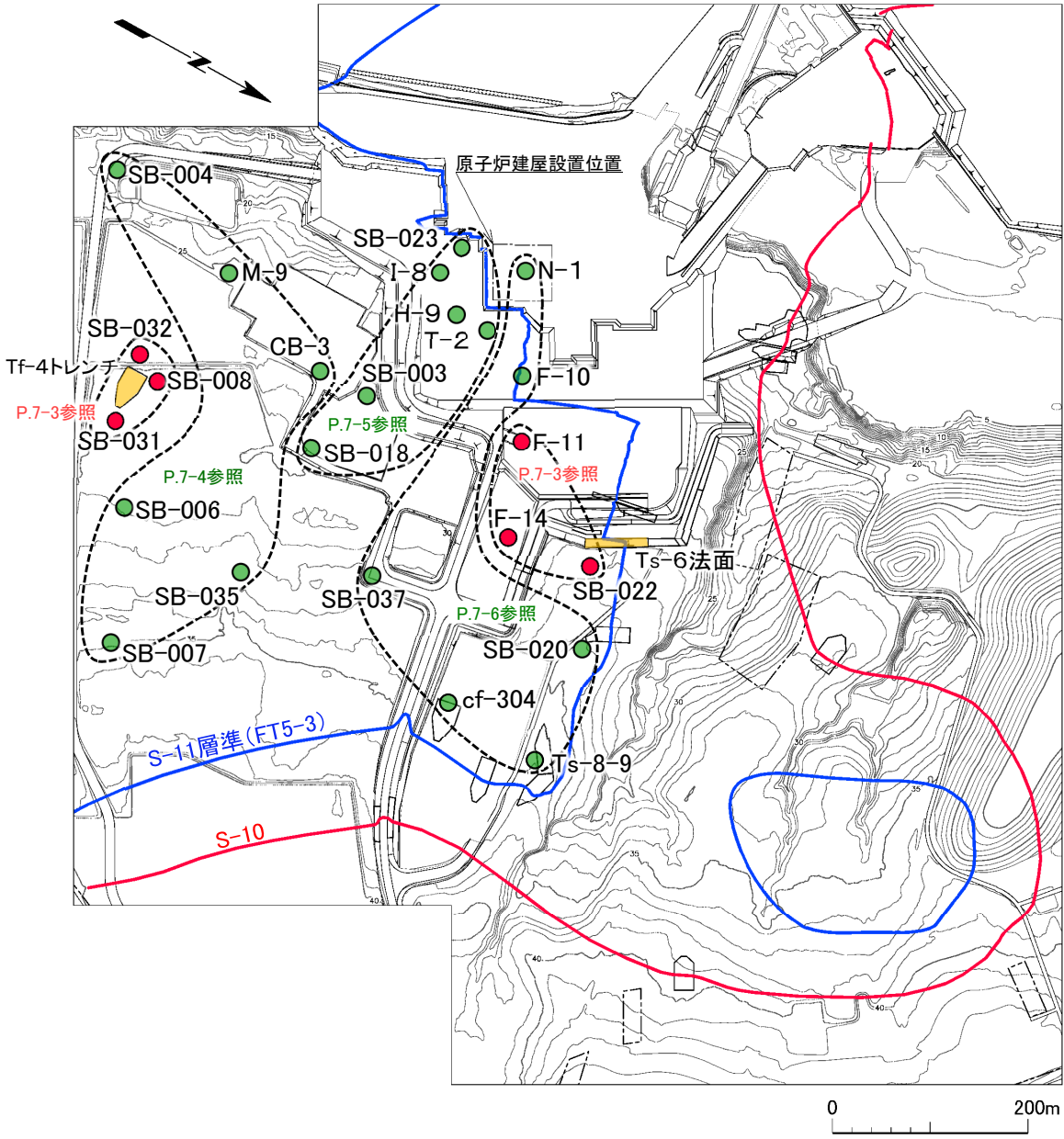
- ・ シームS-10及びシームS-11付近の主に易国間層上部層中に認められる成層構造が発達する部分及び低角の変位を伴う不連続面の分布を確認した結果を示す。



7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(2/18)

コメントNo.S2-136, 137

観察対象としたボーリング孔の位置



凡例

- トレンチ・法面
- 敷地境界
- シームS-11層準(FT5-3)*1が
第四系基底面、掘削面等に現れる位置
- シームS-10が
第四系基底面、掘削面等に現れる位置
- ボーリング孔*2
(本編資料にボーリングコア観察結果を示した孔)
- ボーリング孔
(補足説明資料にボーリングコア観察結果を示した孔)
- P.7-3参照
ボーリングコア観察結果(地質柱状図)参照ページ

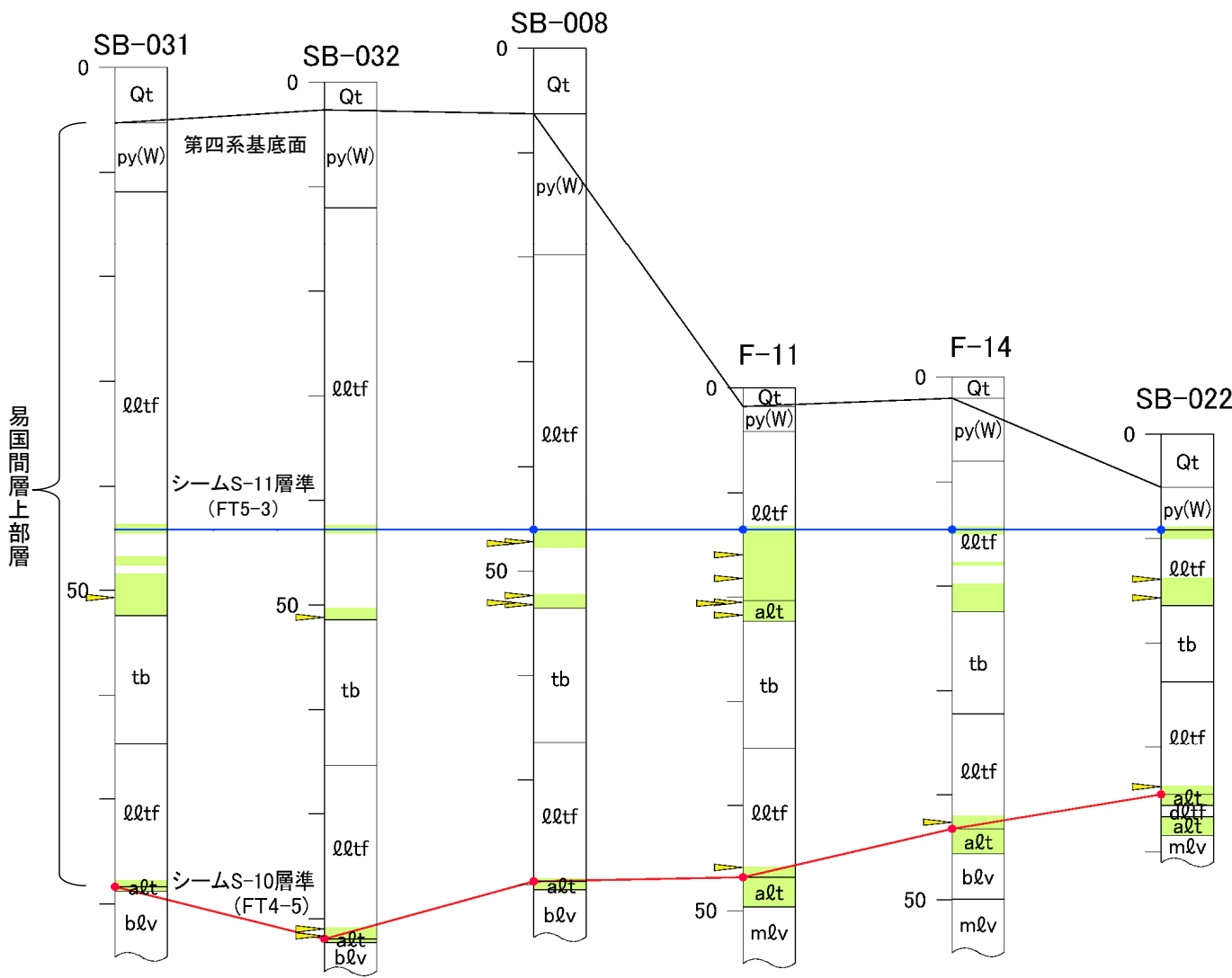
*1: シームS-11を挟む細粒凝灰岩の鍵層名。
 *2: 変状が認められるTs-6法面付近の3孔及び易国間層上部層が最も厚く分布し、易国間層上部層全体の低角の変位を伴う不連続面の分布等が確認できるTf-4トレンチ付近の3孔の計6孔のボーリングコア観察結果については、本編資料P.3-97~P.3-100に示した。

- 観察の対象としたボーリング孔は、敷地内のシームS-11層準が分布する範囲から選定した計24孔である。
- ボーリングコア観察結果(地質柱状図)をP.7-3~P.7-6に示す。
- 観察対象とした24孔の地質柱状図及びコア写真は机上配布資料に示す。



ボーリングコア観察結果(地質柱状図)(1/4)

コメントNo.S2-136, 137



注) 本図ではシームS-11の層準を基準として地質柱状図を南北に並べて対比。

凡例

Qt	第四系(腐植土, ローム, 段丘堆積物), 埋土	
py(W)	火山砕屑岩(風化部) (淡灰色火山礫凝灰岩(風化部))	
lltf	淡灰色火山礫凝灰岩	低角の変位を伴う不連続面
alt	細粒凝灰岩, 淡灰色火山礫凝灰岩, 粗粒凝灰岩	成層構造が発達する部分
tb	凝灰角礫岩	第四系基底面
aalt	細粒凝灰岩, 粗粒凝灰岩, 暗灰色火山礫凝灰岩	シームS-11層準(FT5-3) (青丸はシームS-11)
dalt	暗灰色火山礫凝灰岩	シームS-10層準(FT4-5) (赤丸はシームS-10)
blv	安山岩溶岩(角礫状)	
mlv	安山岩溶岩(塊状)	

- 低角の変位を伴う不連続面*は、シームS-10, S-11の層準付近の成層構造が発達する部分に分布が限定され、各シームから離れた淡灰色火山礫凝灰岩(lltf)、凝灰角礫岩(tb)及び安山岩溶岩(blv, mlv)中には認められない。
- 低角の変位を伴う不連続面は、主としてシームS-11層準(FT5-3)付近の下盤の成層構造が発達する部分に分布する。
- また、成層構造が発達する部分の分布範囲は、下限が凝灰角礫岩の上面で、上限は主としてシームS-11層準(FT5-3)である。
- 易国間層上部層が厚く分布し、シームS-11が分布するSB-008孔のボーリングコア観察結果(コア写真)は本編資料P.3-99, 3-100に示す。他の5孔についてはP.7-7~P.7-18に示す。

低角の変位を伴う不連続面の分布とシーム及び成層構造が発達する部分との関係

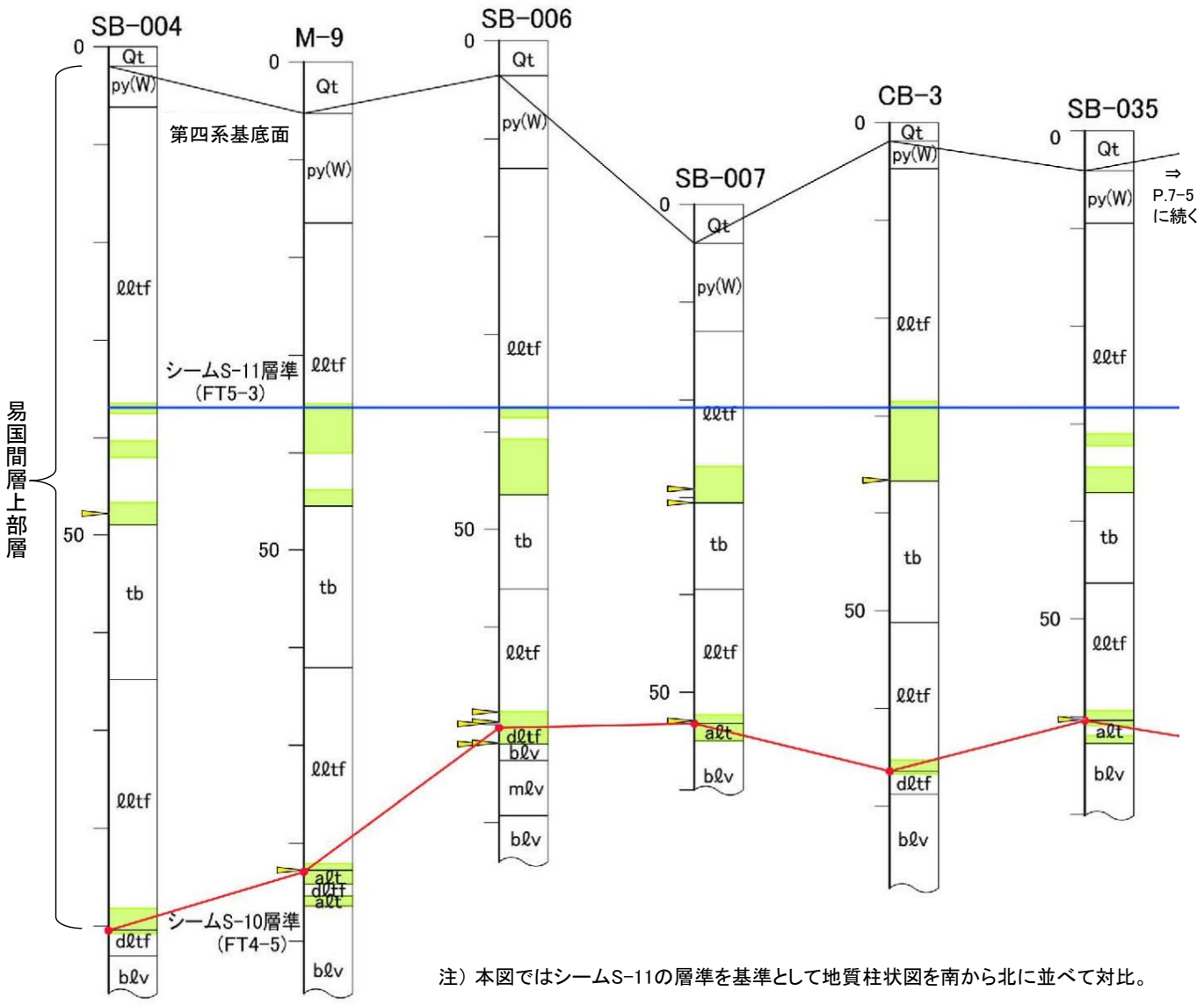
*: ボーリングコアではトレンチ調査と異なり、変位量の判定が困難で、条線も不明瞭なものが多いことから、面が平滑で低角(50°以下)の断裂を保守的に「低角の変位を伴う不連続面」とする。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(4/18)

コメントNo.S2-136, 137



ボーリングコア観察結果(地質柱状図) (2/4)



注) 本図ではシームS-11の層準を基準として地質柱状図を南から北に並べて対比。

凡例

易国間層 上部層	Qt	第四系(腐植土,ローム,段丘堆積物),埋土	
	py(W)	火山砕屑岩(風化部) (淡灰色火山礫凝灰岩(風化部))	
	lltf	淡灰色火山礫凝灰岩	低角の変位を伴う不連続面
	alt	細粒凝灰岩, 淡灰色火山礫凝灰岩, 粗粒凝灰岩	成層構造が発達する部分
	tb	凝灰角礫岩	第四系基底面
易国間層 下部層	alt	細粒凝灰岩, 粗粒凝灰岩, 暗灰色火山礫凝灰岩	シームS-11層準(FT5-3) (青丸はシームS-11)
	dltf	暗灰色火山礫凝灰岩	シームS-10層準(FT4-5) (赤丸はシームS-10)
	blv	安山岩溶岩(角礫状)	
	mlv	安山岩溶岩(塊状)	

- 低角の変位を伴う不連続面*は、シームS-10, S-11の層準付近の成層構造が発達する部分に分布が限定され、各シームから離れた淡灰色火山礫凝灰岩(lltf)、凝灰角礫岩(tb)及び安山岩溶岩(blv, mlv)中には認められない。
- 低角の変位を伴う不連続面は、主としてシームS-11層準(FT5-3)付近の下盤の成層構造が発達する部分に分布する。
- また、成層構造が発達する部分の分布範囲は、下限が凝灰角礫岩の上面で、上限は主としてシームS-11層準(FT5-3)である。

*:ボーリングコアではトレンチ調査と異なり、変位量の判定が困難で、条線も不明瞭なものが多いことから、面が平滑で低角(50°以下)の断裂を保守的に「低角の変位を伴う不連続面」とする。

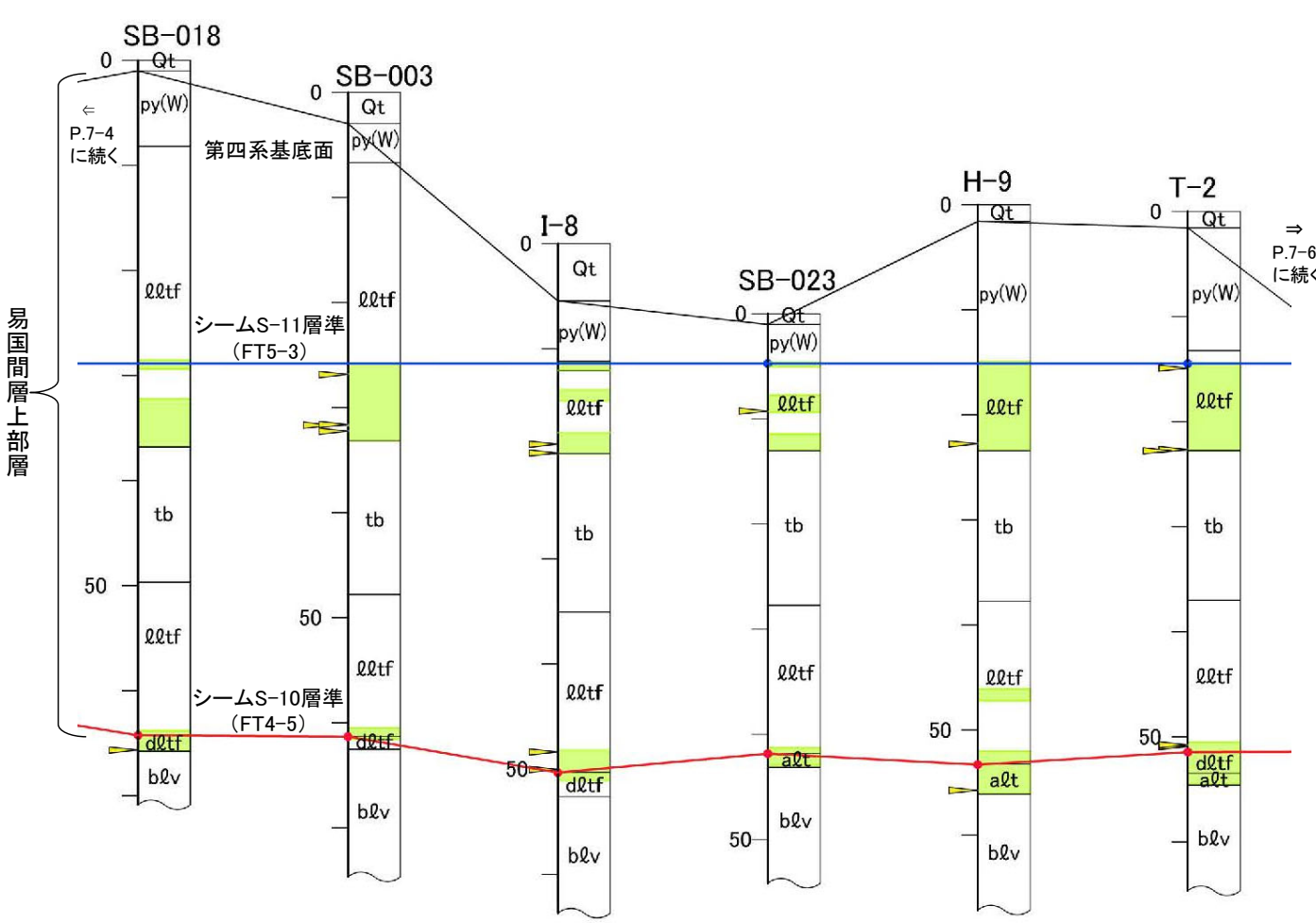
低角の変位を伴う不連続面の分布とシーム及び成層構造が発達する部分との関係

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(5/18)

コメントNo.S2-136, 137



ボーリングコア観察結果(地質柱状図) (3/4)



凡例

Qt	第四系(腐植土,ローム,段丘堆積物),埋土	
py(W)	火山碎屑岩(風化部) (淡灰色火山礫凝灰岩(風化部))	
Qltf	淡灰色火山礫凝灰岩	低角の変位を伴う不連続面
aolt	細粒凝灰岩, 淡灰色火山礫凝灰岩, 粗粒凝灰岩	成層構造が発達する部分
tb	凝灰角礫岩	第四系基底面
aolt	細粒凝灰岩, 粗粒凝灰岩, 暗灰色火山礫凝灰岩	シームS-11層準(FT5-3) (青丸はシームS-11)
dltf	暗灰色火山礫凝灰岩	シームS-10層準(FT4-5) (赤丸はシームS-10)
blv	安山岩溶岩(角礫状)	
mlv	安山岩溶岩(塊状)	

- 低角の変位を伴う不連続面*は、シームS-10, S-11の層準付近の成層構造が発達する部分に分布が限定され、各シームから離れた淡灰色火山礫凝灰岩(Qltf)、凝灰角礫岩(tb)及び安山岩溶岩(blv, mlv)中には認められない。
- 低角の変位を伴う不連続面は、主としてシームS-11層準(FT5-3)付近の下盤の成層構造が発達する部分に分布する。
- また、成層構造が発達する部分の分布範囲は、下限が凝灰角礫岩の上面で、上限は主としてシームS-11層準(FT5-3)である。

注) 本図ではシームS-11の層準を基準として地質柱状図を南から北に並べて対比。

低角の変位を伴う不連続面の分布とシーム及び成層構造が発達する部分との関係

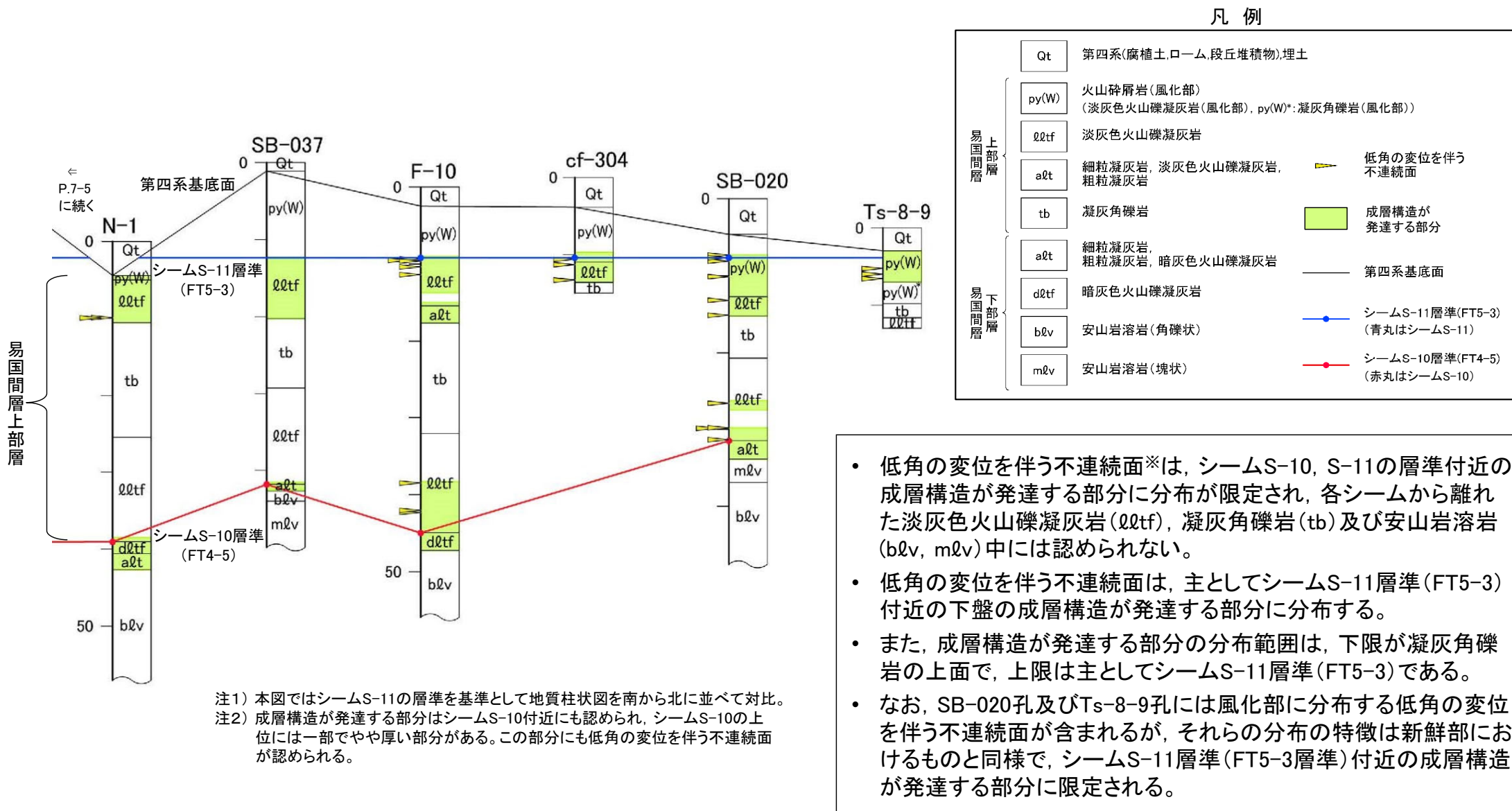
*: ボーリングコアではトレンチ調査と異なり、変位量の判定が困難で、条線も不明瞭なものが多いことから、面が平滑で低角(50°以下)の断裂を保守的に「低角の変位を伴う不連続面」とする。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(6/18)

コメントNo.S2-136, 137



ボーリングコア観察結果(地質柱状図) (4/4)



- 低角の変位を伴う不連続面※は、シームS-10, S-11の層準付近の成層構造が発達する部分に分布が限定され、各シームから離れた淡灰色火山礫凝灰岩(lltf)、凝灰角礫岩(tb)及び安山岩溶岩(bLv, mLv)中には認められない。
- 低角の変位を伴う不連続面は、主としてシームS-11層準(FT5-3)付近の下盤の成層構造が発達する部分に分布する。
- また、成層構造が発達する部分の分布範囲は、下限が凝灰角礫岩の上面で、上限は主としてシームS-11層準(FT5-3)である。
- なお、SB-020孔及びTs-8-9孔には風化部に分布する低角の変位を伴う不連続面が含まれるが、それらの分布の特徴は新鮮部におけるものと同様で、シームS-11層準(FT5-3層準)付近の成層構造が発達する部分に限定される。

低角の変位を伴う不連続面の分布とシーム及び成層構造が発達する部分との関係

※:ボーリングコアではトレンチ調査と異なり、変位量の判定が困難で、条線も不明瞭なものが多いことから、面が平滑で低角(50°以下)の断裂を保守的に「低角の変位を伴う不連続面」とする。

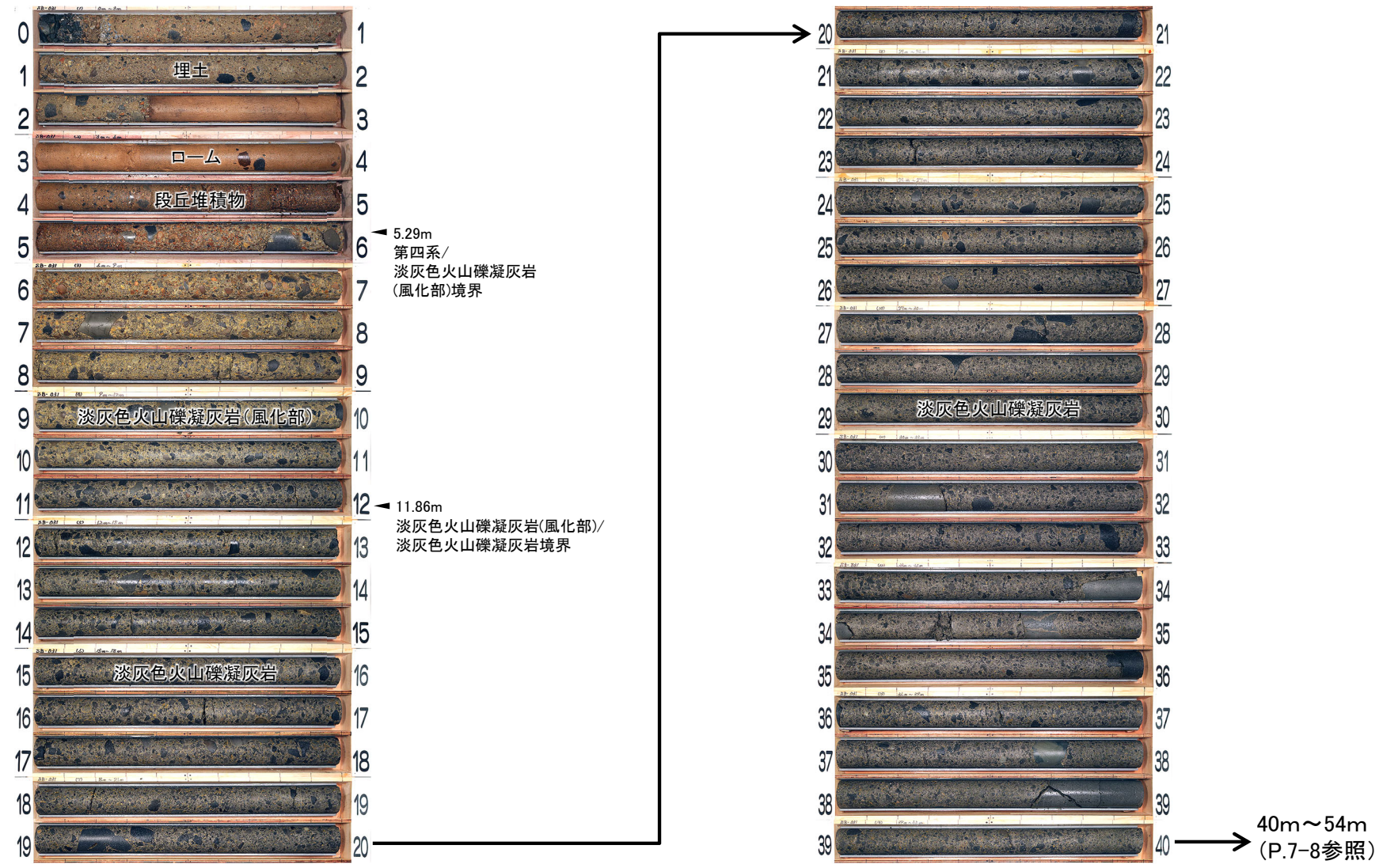


7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(7/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): SB-031孔(1/3)(0m~40m区間)

コメントNo.S2-136, 137

SB-031孔(0m~40m区間)



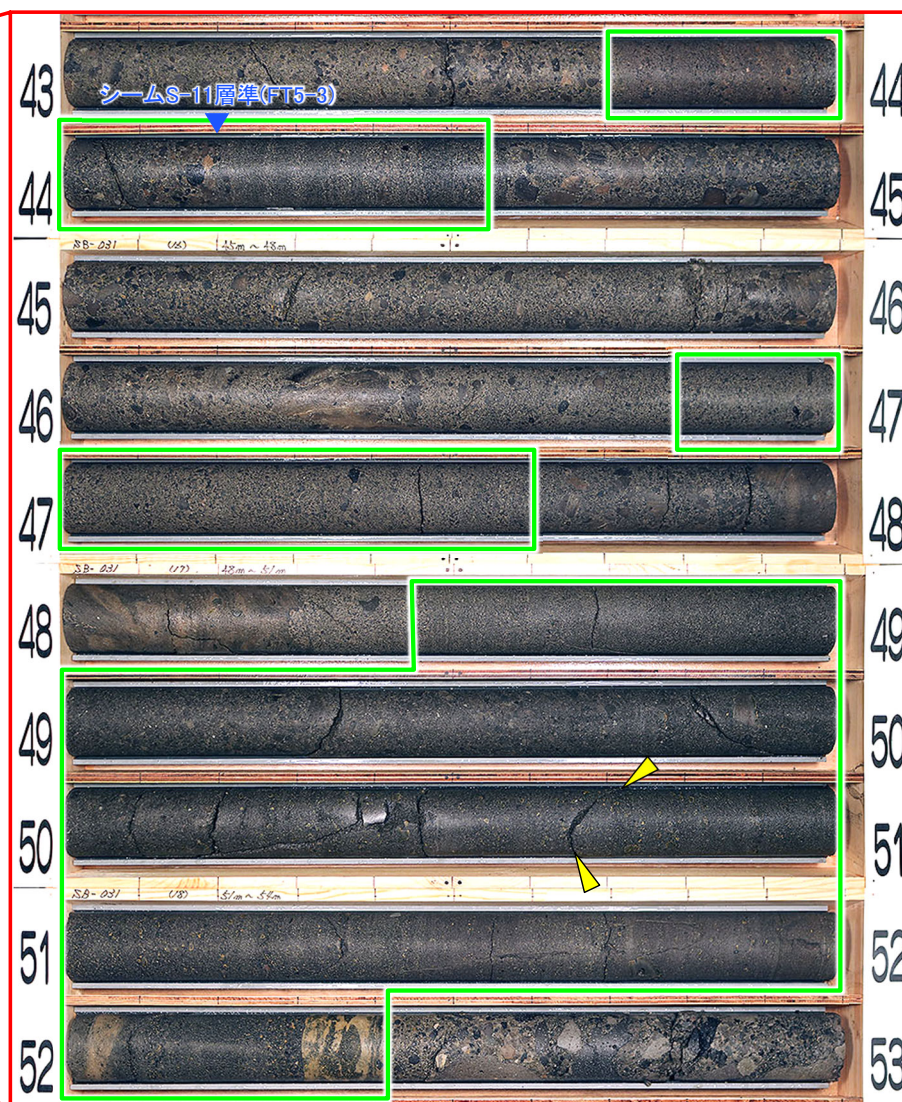
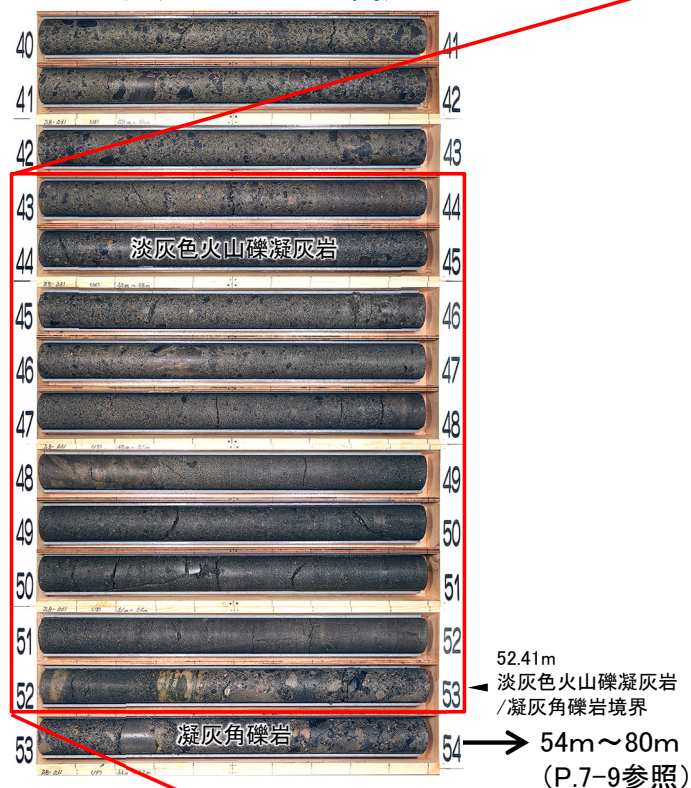
淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められず、低角の変位を伴う不連続面も認められない。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(8/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): SB-031孔(2/3)(40m~54m区間)

コメントNo.S2-136, 137

SB-031孔(40m~54m区間)



凡例

- 成層構造が発達する部分
- ▼ 低角の変位を伴う不連続面

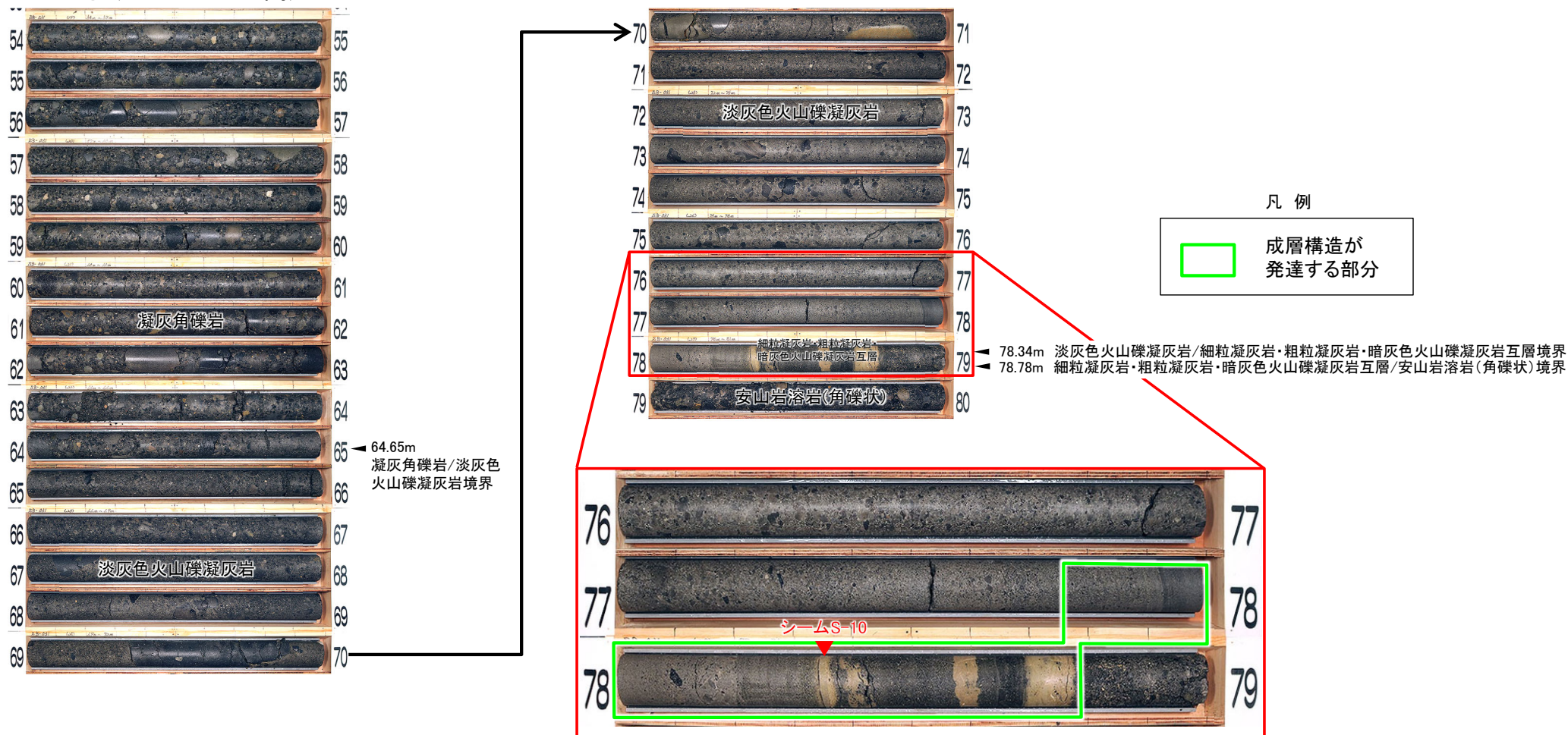
- ・ シームS-11層準付近より上位の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められない。
- ・ シームS-11層準付近(約0.9m区間)及びその下位の淡灰色火山礫凝灰岩(約0.8m及び約4.0m区間)には、成層構造が発達する部分が認められ、この部分に低角の変位を伴う不連続面が分布する。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(9/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): SB-031孔(3/3)(54m~80m区間)

コメントNo.S2-136, 137

SB-031孔(54m~80m区間)



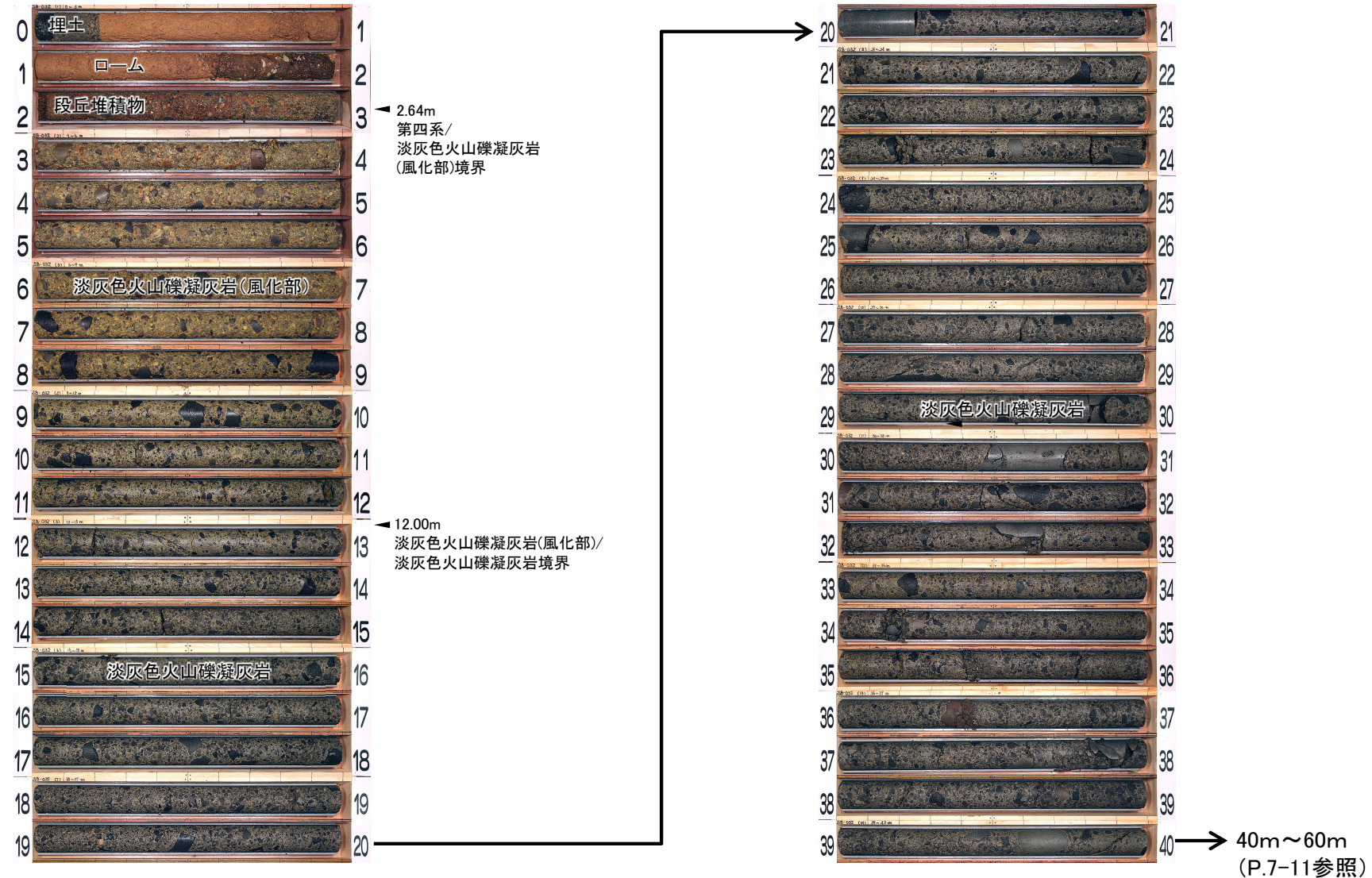
- 凝灰角礫岩及びシームS-10付近より上位の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められない。
- シームS-10付近(約1.0m区間)には、成層構造が発達する部分が認められるが、この部分に低角の変位を伴う不連続面は分布しない。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(10/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): SB-032孔(1/3)(0m~40m区間)

コメントNo.S2-136, 137

SB-032孔(0m~40m区間)



本区間の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められず、低角の変位を伴う不連続面も認められない。

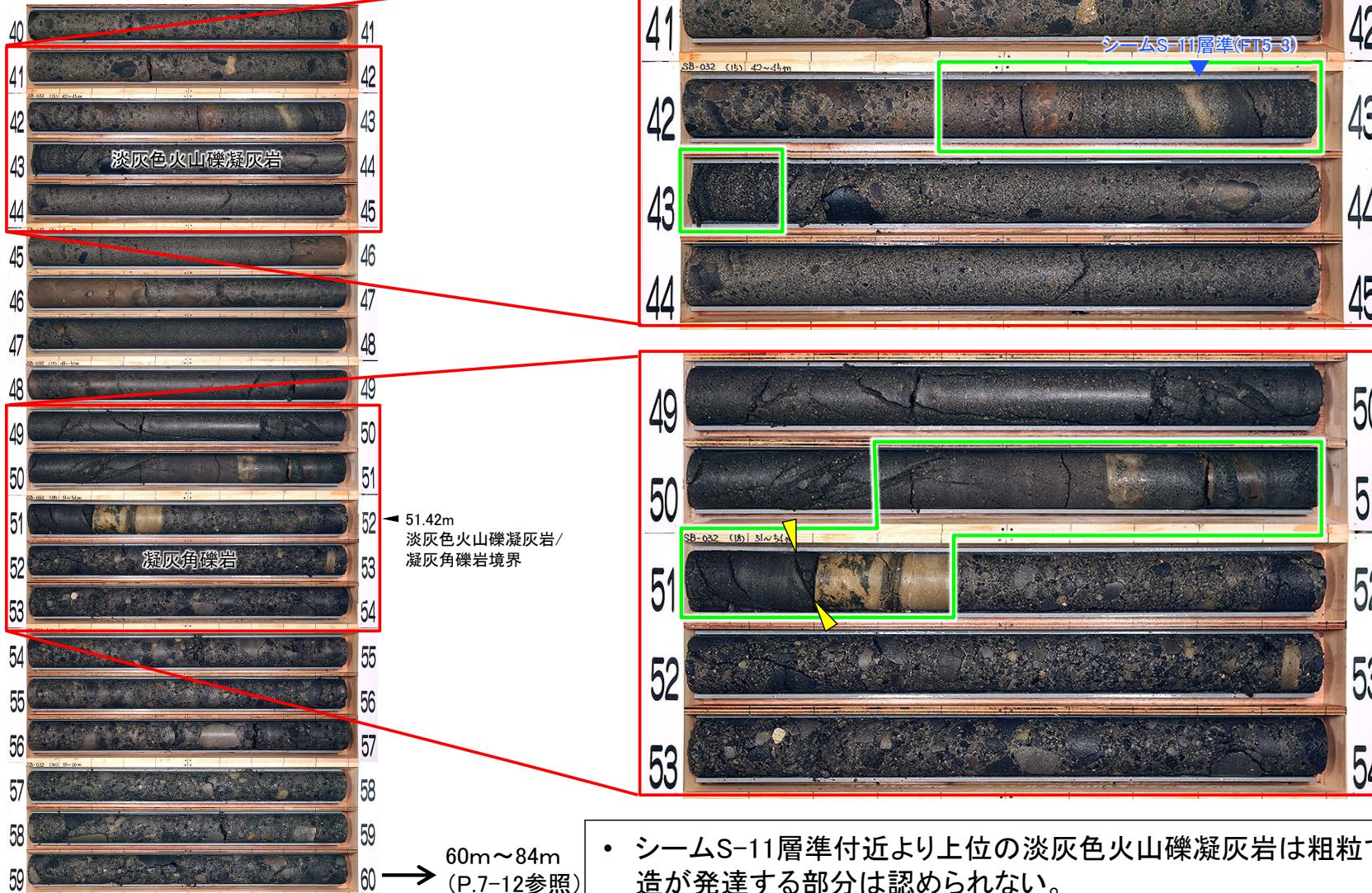
7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(11/18)



ボーリングコア観察結果(コア写真): SB-032孔(2/3)(40m~60m区間)

コメントNo.S2-136, 137

SB-032孔(40m~60m区間)



凡例

- 成層構造が発達する部分
- ▼ 低角の変位を伴う不連続面

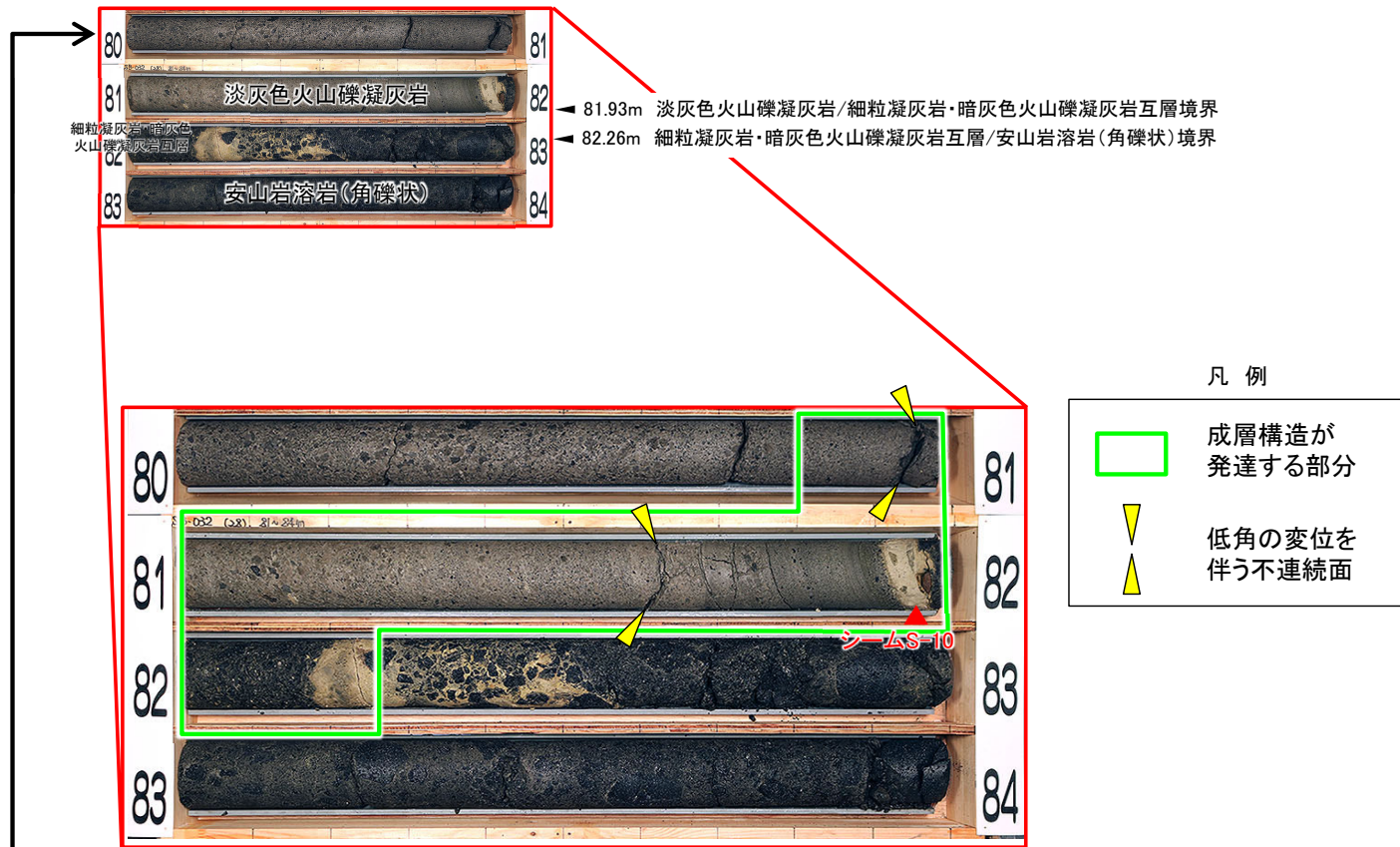
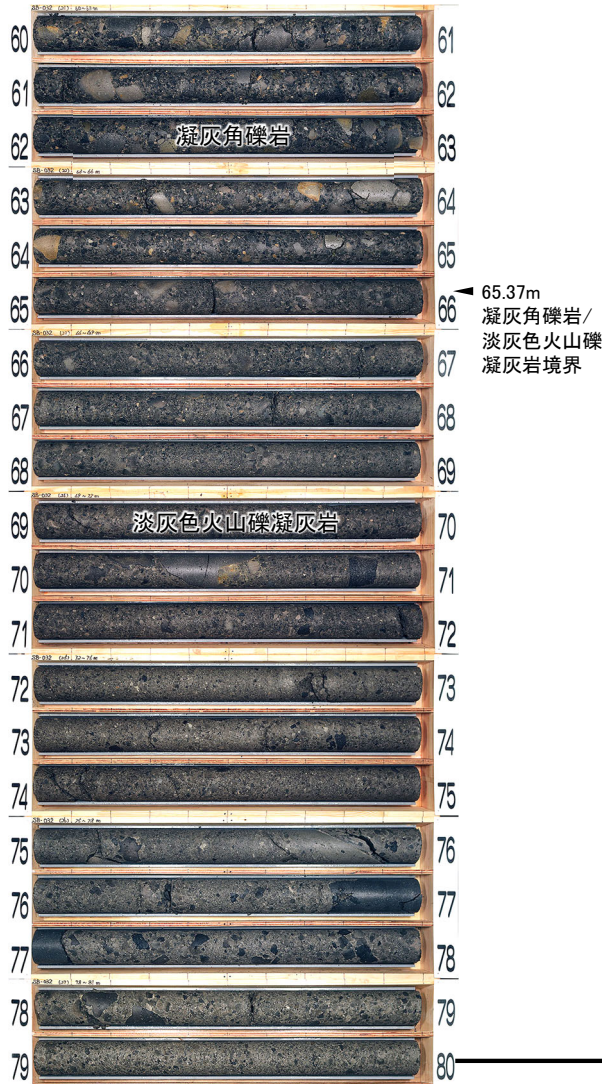
- シームS-11層準付近より上位の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められない。
- シームS-11層準付近(約0.8m区間)及びその下位の淡灰色火山礫凝灰岩(約1.1m区間)には、成層構造が発達する部分が認められ、この部分に低角の変位を伴う不連続面が分布する。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(12/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): SB-032(3/3)(60m~84m区間)

コメントNo.S2-136, 137

SB-032孔(60m~84m区間)



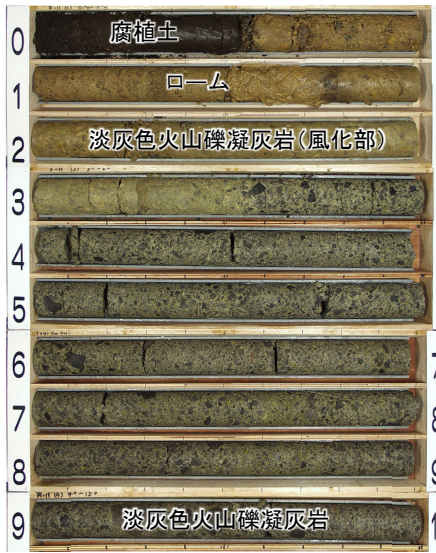
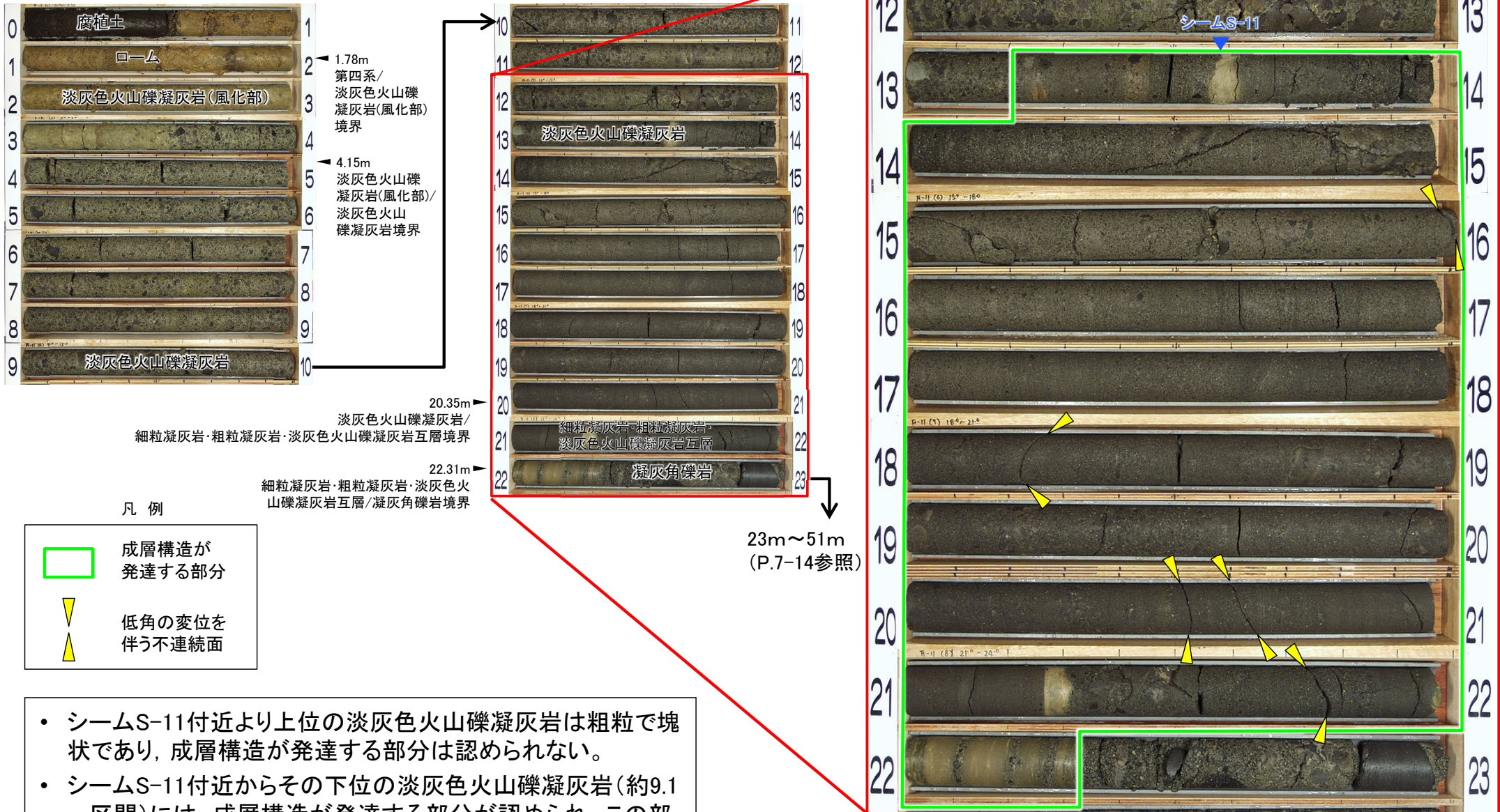
- 凝灰角礫岩及びシームS-10付近より上位の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められない。
- シームS-10付近(約1.5m区間)には、成層構造が発達する部分が認められ、この部分に低角の変位を伴う不連続面が分布する。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(13/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): F-11孔(1/2) (0m~23m区間)

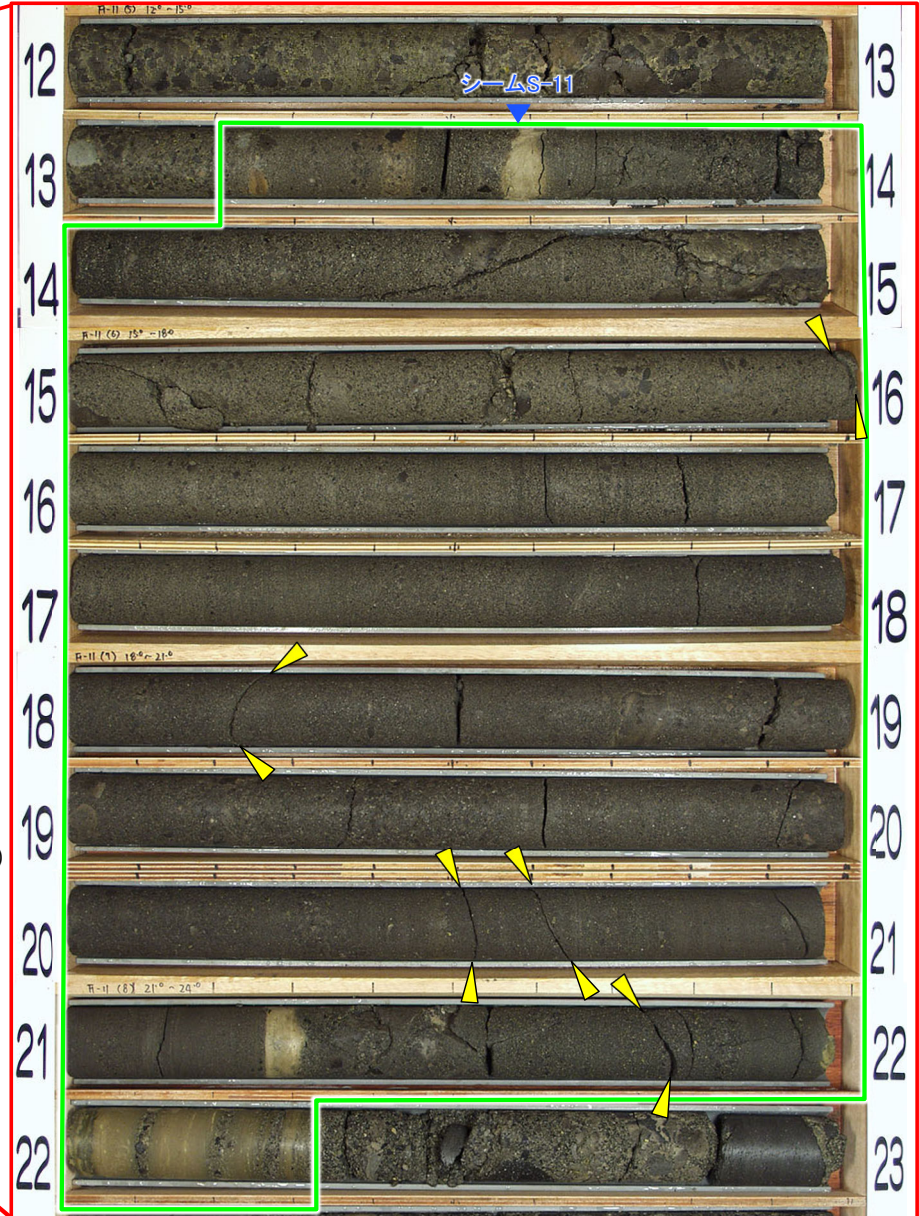
コメントNo.S2-136, 137

F-11孔(0m~23m区間)



1.78m
第四系/
淡灰色火山礫
凝灰岩(風化部)
境界

4.15m
淡灰色火山礫
凝灰岩(風化部)/
淡灰色火山
礫凝灰岩境界



23m~51m
(P.7-14参照)

凡 例

成層構造が発達する部分

!> 低角の変位を伴う不連続面

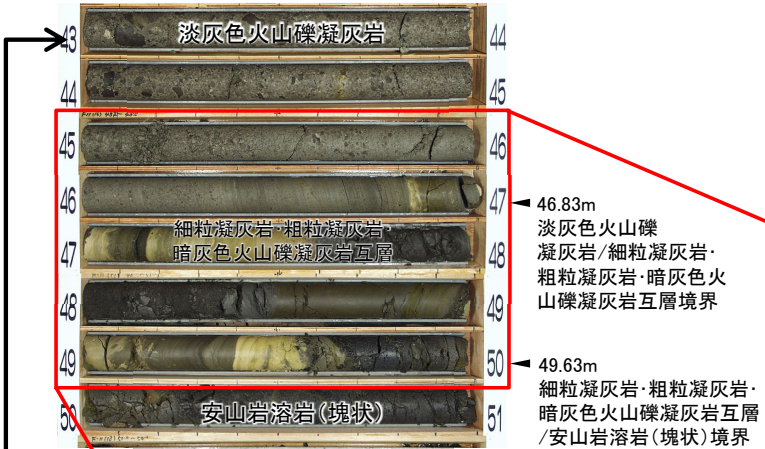
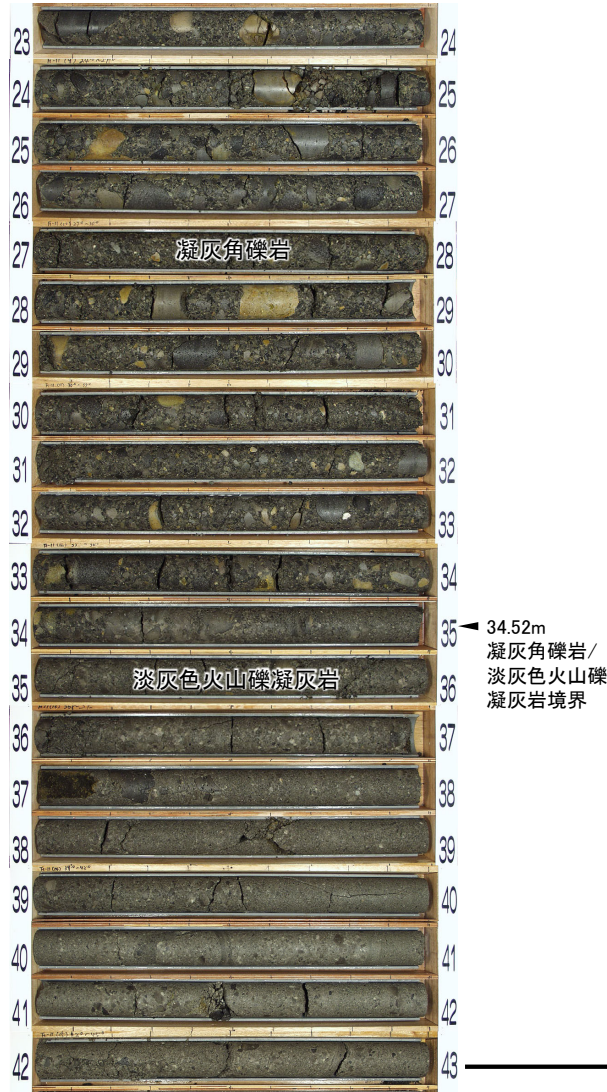
- ・ シームS-11付近より上位の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められない。
- ・ シームS-11付近からその下位の淡灰色火山礫凝灰岩(約9.1m区間)には、成層構造が発達する部分が認められ、この部分に低角の変位を伴う不連続面が分布する。

7. 成層構造及び低角の変位を伴う不連続面の分布(14/18)

ボーリングコア観察結果(コア写真): F-11孔(2/2) (23m~51m区間)

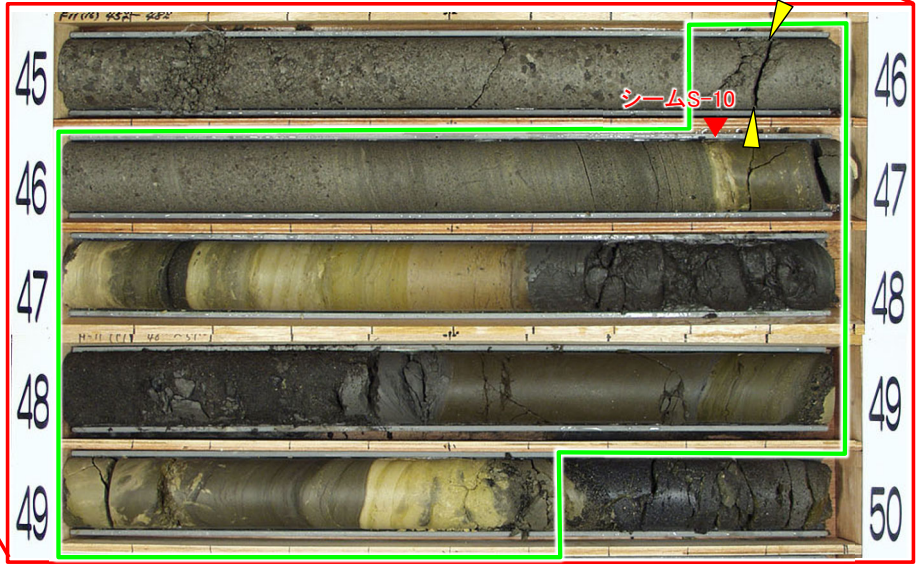
コメントNo.S2-136, 137

F-11孔(23m~51m区間)



凡例

- 成層構造が発達する部分
- ▼ 低角の変位を伴う不連続面



- 凝灰角礫岩及びシームS-10付近より上位の淡灰色火山礫凝灰岩は粗粒で塊状であり、成層構造が発達する部分は認められない。
- シームS-10付近(約3.8m区間)には、成層構造が発達する部分が認められ、この部分に低角の変位を伴う不連続面が分布する。